2021/11/9

(うときゅういっき「これから」 人口)

人が少な過ぎると、人が恋しくなります。

人が多過ぎると、人が鬱陶しくなります。

都会での人間関係が疎遠なのは後者の理屈が当て嵌まっているからでしょう。

又、近年人々が他の人々を排斥する傾向が顕著になっているのも、矢張り人口が増えすぎて後者の理屈が当て嵌まるようになったからかもしれません。

ならば人恋しくなるために、又は仲良くするために過疎地や田舎に住む(移住する)のはいいとしても、後段の排斥を減らすために人口を減らせばいいのかというと、それでは恐ろしい考え方に陥って仕舞います。

CO2 削減というのは詰まるところそれを作り出す(排出する)人口の問題と非常に密接に関係している様な気がします。

人の数がこの先もどんどん増え続ければ、地球を破壊する CO2 の抑制が等比級数的に難しくなっていく問題をはらんでいるからです。

そして又上述致しました様な危険な考え方の問題もはらんでいるので、そこ、即ち人間と地球の共存点を見いだすのが実に大変で極めて難しい問題なのだと頭を痛めておるところで御座います。

しかし地球というのはある意味「適者生存」を肅々と且つオートマティカルに適用するだけの存在なので、矢張り答えを出さなくてはならないのは「思考が出来るフレキシブルな存在」である我々の側からなのだろうなとは思っております。

余談)

人口とは将に書いて字の如く「人の口数」

食っていかねばならぬと言う最も根源的な問題なのでしょう。

更には「人の口数だけ意見はある」と言う側面もあります。

又、英語で人口は population

形容詞の popular が「一般的な」「慣れしたしんだ」「人気のある」という訳になります。

そこから populism (ポピュリズム=大衆迎合主義)という言葉が生まれました。

要するに人間の根本的な傾向である「人気取り」のことです。

(注:大衆迎合の意味するところは、人気取りのために、未来における結果責任を無視して「現時点の人々」が欲しているおいしい話を根拠なく与え続ける空手形も同然の幻想誘導を指します)

此れ等 2 点を踏まえても「人口問題 (the issue of population=the huge numbers of mouth)」が如何に我々人間にとって奥深い問題なのかが見て取れるような気が致しております。